



開倫ユネスコ協会 NewsLetter

第80号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915

発行者 林 明夫 2013年10月8日

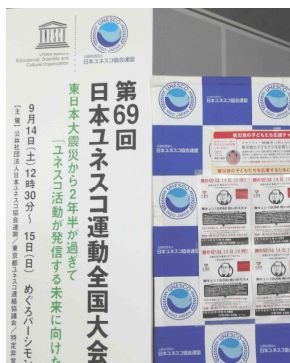
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京

2013年9月14日、15日、東京で日本ユネスコ運動全国大会が開催されました。東日本大震災から2年半が過ぎて、「ユネスコ活動が発信する未来に向けたメッセージ」をテーマに開催されました。

東日本大震災の被災地はいまだ復興の途上にあります。大震災の衝撃や記憶の風化が懸念される今日、大震災をきっかけとして市民の考え方や生活のあり方にも、さまざまな変化をきたしています。そんな中、私たちは教育や文化の力による社会的課題への取り組みを考えてゆかなければなりません。被災した子供たちをはじめ、次世代を担う若者たちが将来に夢を持ち、自分の可能性を信じて学び行動することができる社会づくりのために、東日本大震災の経験から今後、ユネスコ活動に何ができるかを考える大会となりました。全国大会のオープニングは、石巻市雄勝町の、伊達の黒船太鼓保存会の方々による太鼓演奏からスタートしました。まず基調講演として、日本ユネスコ協会連盟の松田昌士会長が、「次世代に引き継ぐユネスコ活動の展開にむけて」と題する講演を行い、また、「ありがとう。そして、これからの絆へ」と題した報告も行われました。その後、パネルディスカッション「震災支援からの学びを明日へつなげるために」が行われました。官・民・産・学、それぞれの立場で震災から何を学び、今後の活動にどうつなげていくべきかを参加者とともに考える機会となりました。2日目午前中、国際連合親善大使、ユネスコ親善大使である千玄室氏の特別後援が行われました。千氏は、「私たちが次世代につなげ、残すべきもの」というテーマで講演されました。

高尾事務局長が全国大会10回出席者表彰を受けました。



ユネスコ全国大会



会場の様子



尼さん人形
大船渡ユネスコ協会より寄贈

関東ブロックユネスコ活動研究会 in 埼玉

2012年10月5～6日、埼玉県越谷市のサンシティホールで、関東ブロックユネスコ活動研究会が開催されました。東京、千葉、茨城、栃木、群馬、埼玉の各都県から約250名の方々が集い、日頃のユネスコ活動についてさまざまな視点から意見交換や発表など行われました。

メインテーマは、「原点に戻ろう！！もう一度心の中に平和のとりでを～いま問われる民間ユネスコ活動～」で、オープニングイベントとして、南越谷阿波踊り合同連による阿波踊りが行われました。会場の方々も参加してください、と声がかかり、一般の参加者から10名がステージで南越谷阿波踊り合同連の方と楽しく阿波踊りを披露しました。

その後、午後1時より開会セレモニーが行われました。主催者からのご挨拶や越谷市長などのご来賓の方々5名が祝辞を述べました。続いて、「世界はひとつ、友情と信頼と絆で結ぼう」をテーマにした基調講演、講師はダイアン吉日さんという落語家でした。ダイアン吉日さんはイギリス人、日本に来て17年、いろいろなパフォーマンス（バルーンアート、外国での落語、キモノから小物作りなど）にも力を注いでいる話などを大変流暢な日本語が楽しく語っていただきました。また、笑顔がひとを幸せにするという内容のことを、実際に会場の参加者と大きな声で笑って楽しみました。あっという間の1時間30分でした。

2日目は、3つの分科会が行われました。それぞれのテーマが、第一分科会「かけがえのない命と平和」、第二分科会「世界寺子屋運動」、第三分科会「ユネスコ活動の活性化」でした。約2時間、各テーマにしたがい発表者が自身の体験や感想などを述べ、そのあと参加者が意見を述べ合う有意義な分科会となりました。

最後に閉会セレモニーがあり、来年の実施県である群馬県の各ユネスコ協会の方々が登場に上がり、ごあいさつをして終了となりました。

2日間、ありがとうございました。



開会セレモニー



会場の様子



分科会での参加者や発表者の様子



来年の開催県、群馬県のユネスコ協会の方々